

入居されている方を尊重するという「Solvang」

＜ソルバング＞

施設長：Ms. Anne Roeder

レポート：富山佳菜

★はじめに

Solvang とは精神障害者居住施設であり、現在の入居者は男女混合の 33 名で 30～83 歳の方がいます。一つの病気に特化した施設ではなく認知症からアルコール依存症まで様々な障害を抱えた方が入居しています。Solvang では一般市民と同じ権利、義務があり家賃を払ったり、自分の生活を行ったりしています。

Solvang の基本的な方針は、出来ることは自分でしてもらい問題を抱えている部分を援助していくという、入居されている方を尊重するという一番意識しており、自分たちの思いと入居者の方との思いが噛み合わずにジレンマを感じることもあるそうです。

Solvang は以前からこのような入居者を尊重するような体制だったのかというところではなく、昔はシャワートイレが共同であったり、お小遣い制で規則があったりしましたが、それを少しずつ変えて今の Solvang になっていったそうです。

★家族のような温かみを感じる工夫

施設に到着して初めて思ったことは、これが施設なのかということです。自分の想像していた施設とはかけ離れていたのでも驚きました。

内装もとてもきれいで施設ということを感じさせないとても明るく開放的



な作りになっていました。3 ユニットで構成されており、各ユニットにキッチンがあり、ユニットごとに食事を摂っているそうです。ですが、みんなと食事をとってもいいし、一人で食事を摂りたいときには自室でとっても良いというきめ細かなところでも個人を尊重ということが徹底されているなど感じました。献立は、二週間ごとにスタッフとユニットのメンバーさんと決めていくそうです。

また各ユニットには決まったスタッフが配置されているので、家族のような温かみを感じさせるような工夫がなされているなど感じました。

★穏やかで温かみのある Solvang

精神障害を抱える人の施設に行くということで、多動な人が多いのかなと思っていましたが、実際に行ってみるとスタッフさんなのか利用者の方なのかわ

からないくらい皆さん穏やかでとても歓迎してくださって感動しました。お部屋の中を見せていただくときも快く見せてくださったり、気さくに声をかけてくれたりと自分の中での精神障害を抱えている人のイメージをいい意味で変えることが出来ました。

施設で働く人のお話を聞いても人を尊重するということが徹底されており、どんなことに対しても真摯に向き合ってもらえるということが利用する人たちに伝わっているから施設全体が穏やかで、温かみのある施設なのかなと感じました。

このように一人一人が尊重されている施設ができたのは、職員の方がより良い施設に変えていこうと努力してきたからであり、私達もこの面は見習っていかなければならないのではないかと思います。

★日本なりの福祉のシステムを

日本も、長期入院のせいで社会復帰が出来ずに社会的入院をしている人たちを少しでもその人らしく生きてもらえよう、施設移行の支援や施設の整備をきちんと行うことが必要なのではないかと感じました。

デンマークの施設を見て人を尊重するということがどういうことなのかとも考えさせられました。生きていく上で自分の意志で好きなことを選択できるということは当たり前のように見えてとても難しいのであると感じました。

それを当たり前のように選択できるようにしているデンマークの福祉システムは日本も見習うべきなのではないのかと感じました。デンマークと全く同じシステムを作るのではなく、良いところを見習って、日本なりの福祉のシステムを作っていくべきなのではないかと今回の研修を通して感じました。

